



日	月	火	水	木	金	土
毎月第1水曜	中小企業金融公庫出張相談 (13~15時、佐世保商工会議所。1月は第2水曜)					1 元日
毎月第2金曜	発明相談 (10時~15時30分、市役所商工労働課 2月は10日)					初日の出クルーズ
2	3	4 官庁仕事始め 東部保健福祉センターのオープン	5	6 消防出初式	7 冬季スターウオッチング	8 子育て講演会 環境プラントバスツアー 水族館半日飼育体験 (22日も)
9 バラの冬期管理講習会 成人式	10 成人の日	11 エコスパ佐世保のオープン 出前保育「みんなよっといでー!」 (14日、2月8日も)	12 中小企業金融公庫出張相談 子育て講演会	13	14 発明相談	15 動物獣舎探検隊 (29日も)
16 マガモ観察会	17	18	19	20	21 健康ウォーキング大会	22 女性の悩みごと相談所・子どもの人権相談所の開設
23 松の手入れ講習会 子育て講演会 市児童管弦楽団定期演奏会	24	25	26	27 心身障害児(者)「ごはんを食べよう」推進フォーラム 作品展~30日 防災講演会	28 「ごはんを食べよう」推進フォーラム	29
30 バリアフリー住宅プランナー研修	31	2月の主な行事予定 2/2 性感染症予防講演会 2/6 サイエンス広場であそぼう 春のコンテナガーデン作り講習会				

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談

専用相談電話 ☎0120-104-783
Eメールアドレス
shc783@city.sasebo.lg.jp

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第2、4木曜の17時30分~20時30分には、夜間教育相談も受け付けます)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

1月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300
3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます
月 おもちをのどに詰まらせたとき
火 コルセットの上手な使い方 水 子どもの救急シリーズ 発熱 木 冬のあなた・お肌の手入れは大丈夫? 金 歯がしみる
土、日 生理が受験に重なりそうになったら

人のうごき

(12月1日現在)

総人口 238,865人 (-161)
男 112,455人 (-116)
女 126,410人 (-45)
世帯数 93,928世帯 (-101)

11月中のうごき

転入 552 転出 693
出生 186 死亡 206

見て、聞く
させぼ
市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC (9時25分) NIB (11時25分)
NCC (11時40分) KTN (17時25分)

ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄

佐世保の名物料理

「海軍さんのビーフシチュー」と「入港ぜんざい」

市内の各飲食店やホテル、旅館などで、佐世保の名物として注目されているメニューです。
一年を通して提供されていますが、寒さも厳しくなるこの季節、ご家族やお友達と一緒に味わってみませんか。

海軍さんのビーフシチュー

海軍佐世保鎮守府で司令長官を務めた東郷平八郎が、イギリス留学中に好んだといわれる「ビーフシチュー」。
明治期に作られた旧日本海軍料理レシピ「海軍割烹術参考書」を基に当時の料理が再現されました。
各店舗独自の味付けも魅力です。



入港ぜんざい

旧日本海軍の習わしの一つ、入港前夜の船中で、無事の帰還を祝い、船員の疲れをいやす目的でぜんざいが出されていたことにちなむメニューです。



お尋ね 佐世保観光情報センター (☎22-6630)

歴史散歩

養殖を始めました。大正2(1913)年のことで、その地が亀の子島なのです。

このころの養殖真珠は貝殻に付着した半円のもので、2年後に天然物と同じ真円の遊離真珠を作る技術が実用化し、亀の子島での養殖が本格化しました。大正6年の山口村(現相浦地区)郷土誌に「真珠貝の生産4万貫(150kg)価格1万円」とあり、急成長ぶりがうかがえます。昭和12(1937)年には世界一の生産量を達成、御木本真珠と並んで養殖真珠の双璧とたたえられました。また、戦後は復興に必要な外貨を稼ぐ有力産業だったのです。

九十九島の亀の子島(俵ヶ浦町)

俵ヶ浦半島の中ほど、俵ヶ浦小学校の北に九十九島の1つ亀の子島があります。本土に近い小さな島ですが、陸地とは180mの橋で結ばれています。ここは、高島真珠養殖俵ヶ浦分場があったところで、最盛期の昭和30年代には50人もの従業員が働いていたのです。



明治13(1880)年、当時の東波佐見村榑木場生まれの高島末五郎は、大村湾で採れるアコヤ貝から真珠が取れ、外国で高価な宝飾品として珍重されることを知り、明治35年に大村湾から九十九島海域でのアコヤ貝採取権を得ました。欧米や中国で販売するとともに、三重県の御木本幸吉が真珠の養殖を始めたことを知り、早速彼も

高島真珠は平成14年に倒産し、亀の子島の養殖場も休業しましたが、

県や市で観光活用を検討しています。この写真は平成12年ごろの操業時のものです。(筒井隆義)

